ほんまは、こんなこと話せるねんで。

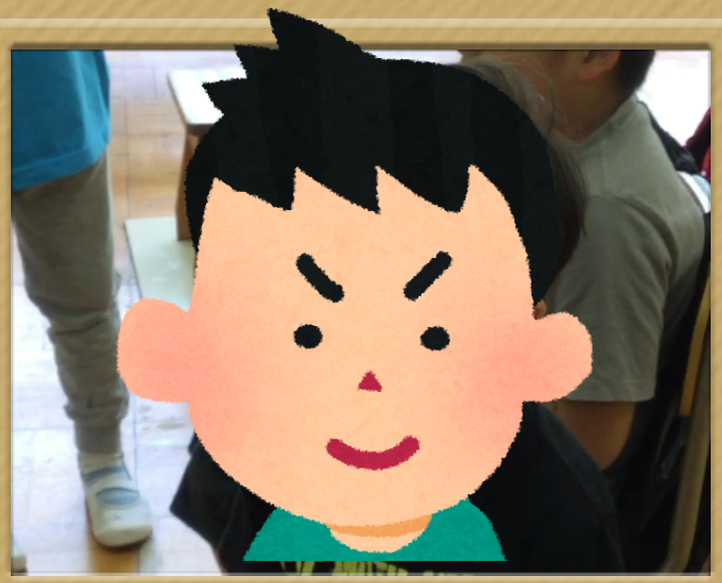
ICT機器を手掛かりに、自分の言いたいことを伝える第一歩

大阪府立寝屋川支援学校
小学部２年　　千松 聡司

大阪府立寝屋川支援学校

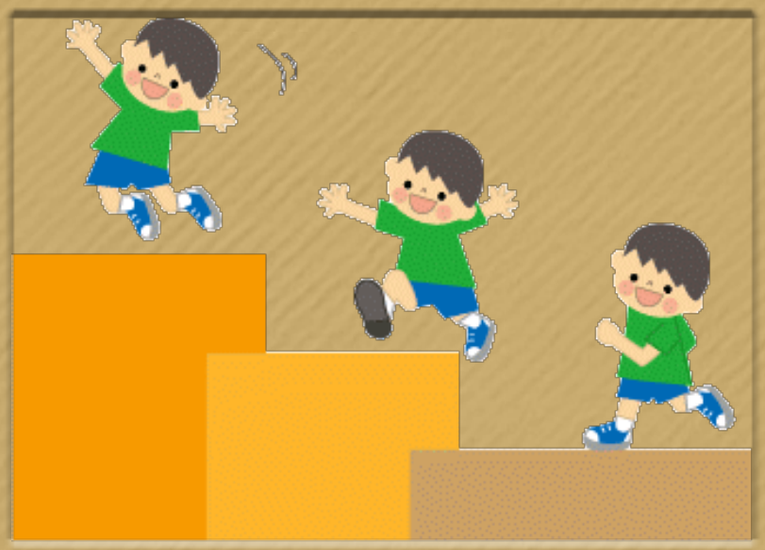
本日の内容

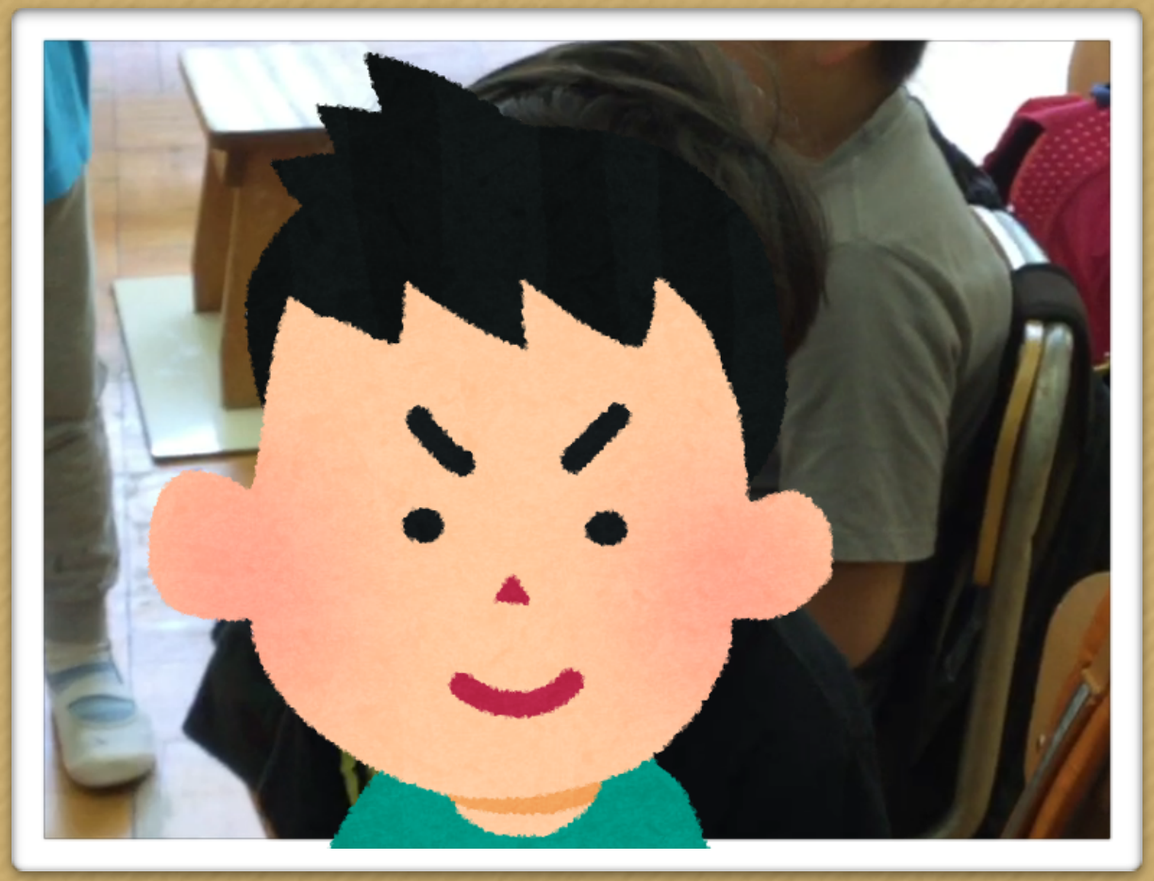
対象児童の紹介



取り組み内容

今後の展望



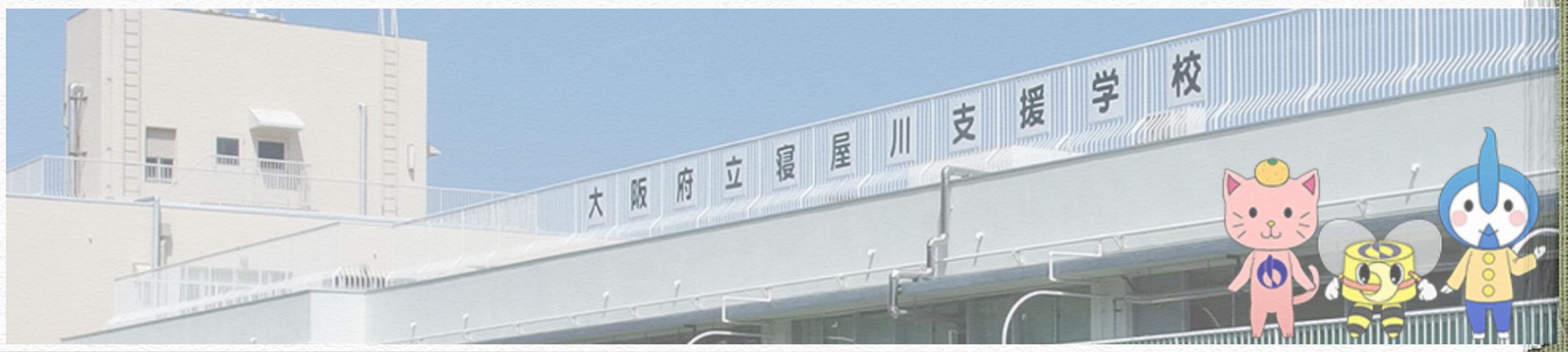


対象児童の紹介です

子どもの話です

Ｓくん

小学部２年生 ７歳
自閉症スペクトラム障害
療育手帳はＢ２
太田ステージによる発達検査 StageⅣ

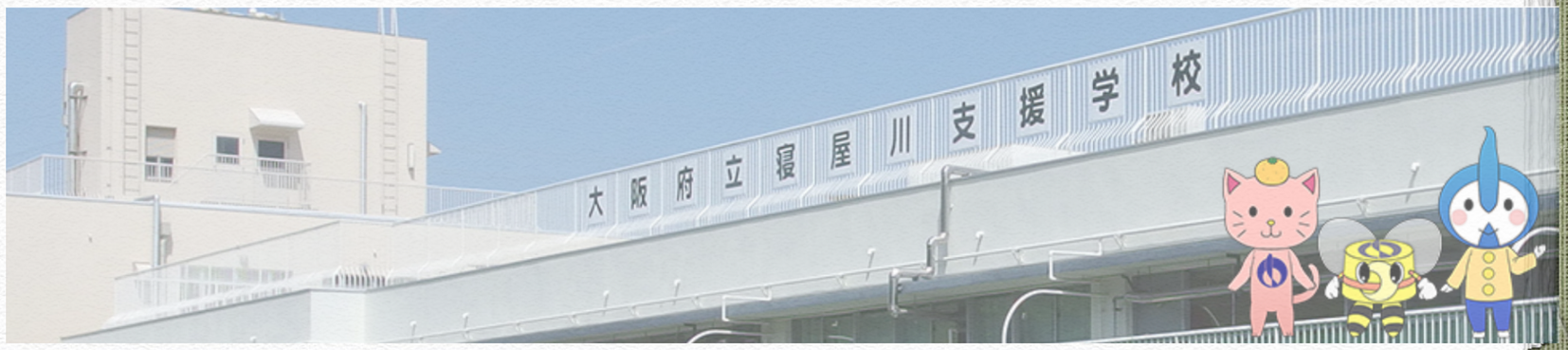


子どもの話です

ちなみに

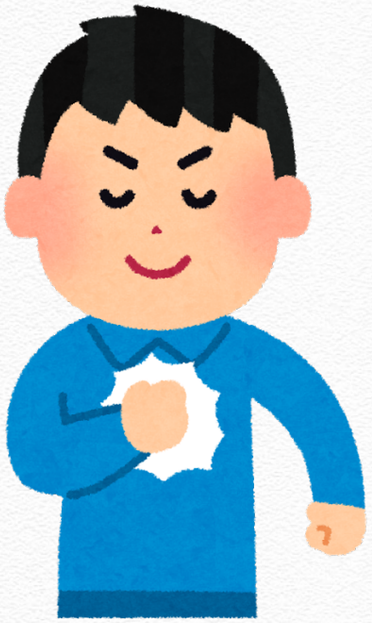
太田ステージ StageⅣ
基本的関係の概念が形成された段階
言語で理解でき、思考の柔軟性が増す段階

太田ステージ StageⅣの目標
対人関係の持ち方や生活の場でのスキルを身につけること

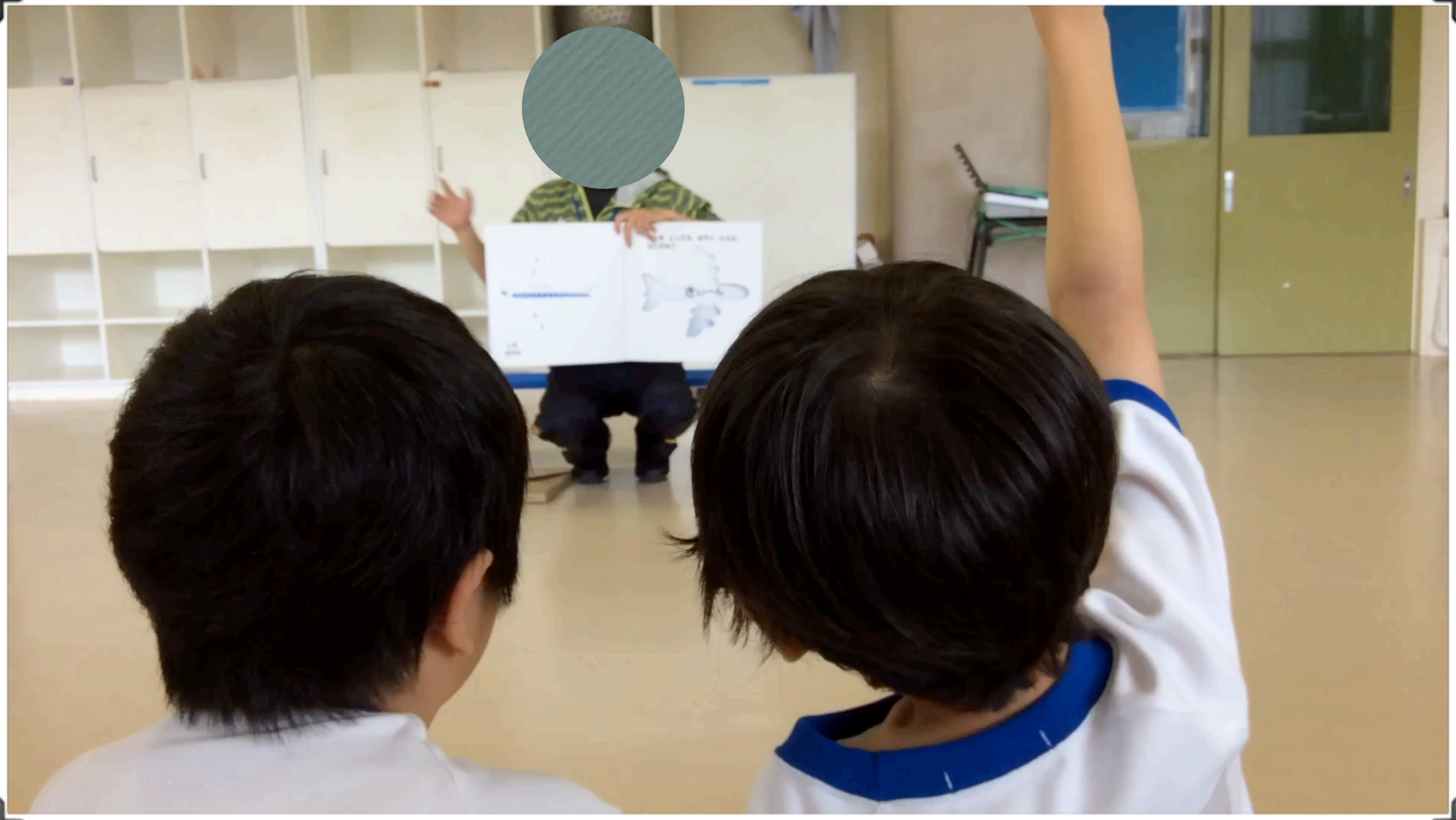


もうすこし、詳しく話します。

授業中は、みんなの中で積極的に挙手や発言ができます。なおかつ、的確に答えられています。

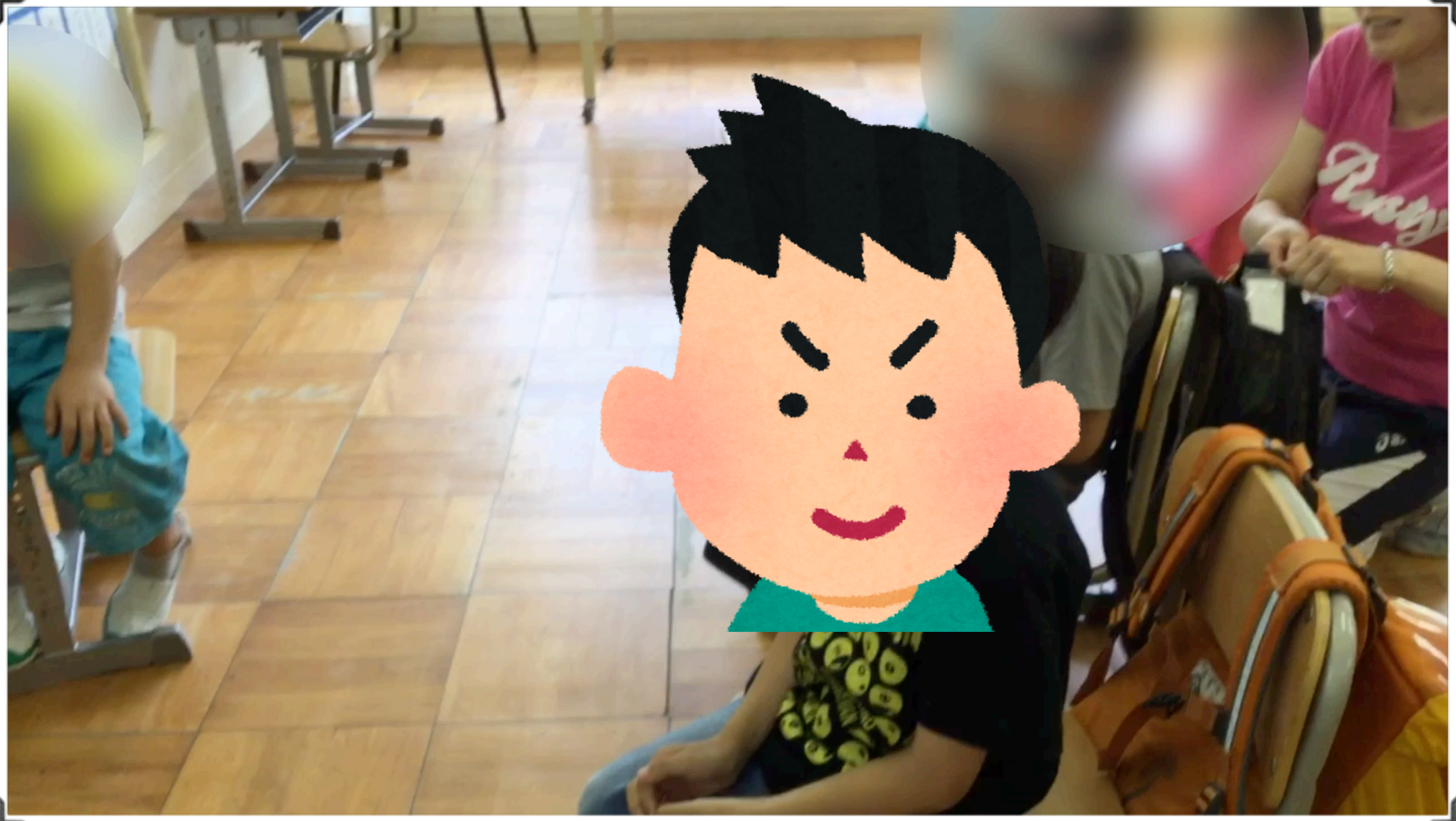


学年活動（あそび）、絵本を見ながら

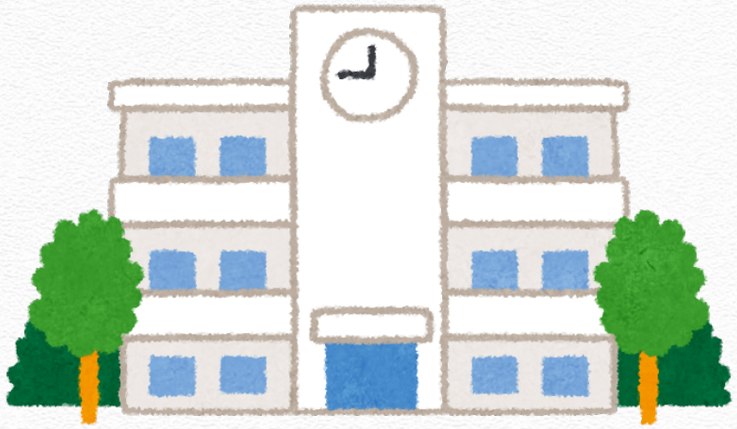


授業中の様子

帰りの会の様子です



もうすこし、詳しく話します。



担任からＳくんへの質問、勧誘等については、イエス、ノーを首振りで答えることができる。

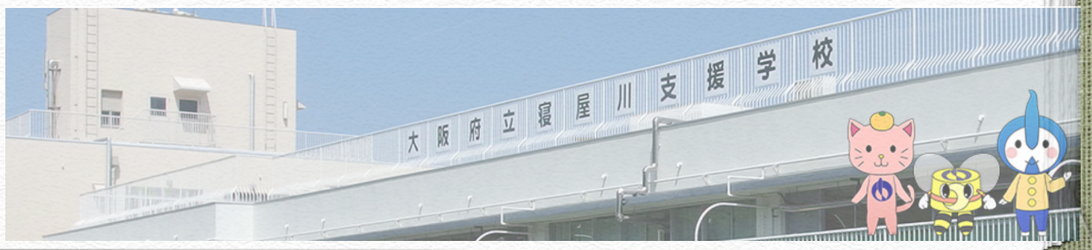
子どもの話です

Ｓくんを褒めると…

子どもの話です

Ｓくんの困り

みんなの前では喋れるけど
先生と２人きりだと喋りにくいなぁ…



子どもの話です

担任からみたＳくんの困りの原因

・場面性のかんもく症？

・ただただ恥ずかしがり？

・トラウマがあったり…?

・自信がないの…?

・話すことに苦手な部分があるかも？

家庭でも…

一番安心でき、大好きなお母さんとのやりとりや発信も極端に少ない。
聞かれると、同様に首振りで答えられる。

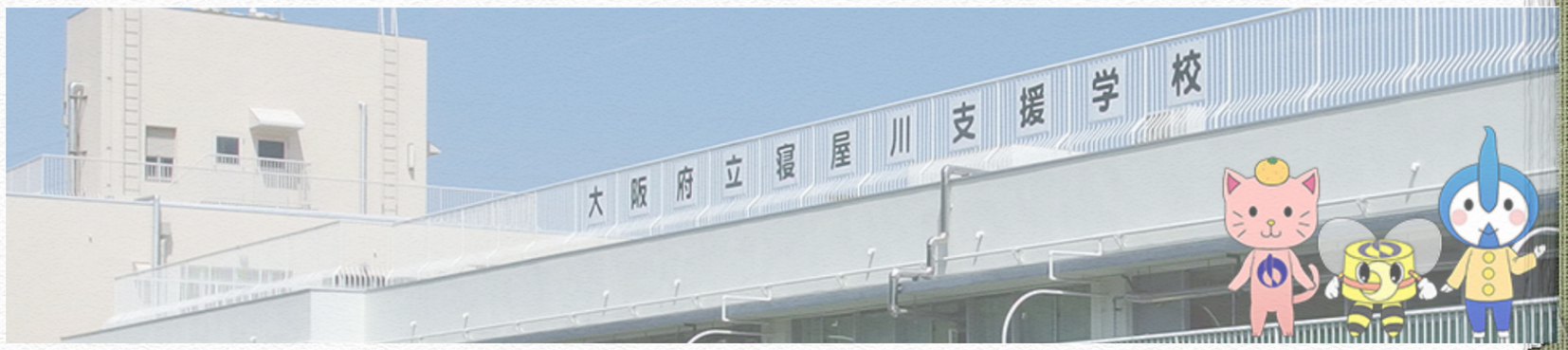
子どもの話です

Ｓくんの困り

お母さんともなんだか話しにくい…

連絡帳にて

学校どうだった? と聞くと、怒り出して答えてくれませんでした。



子どもの話です

Ｓくん

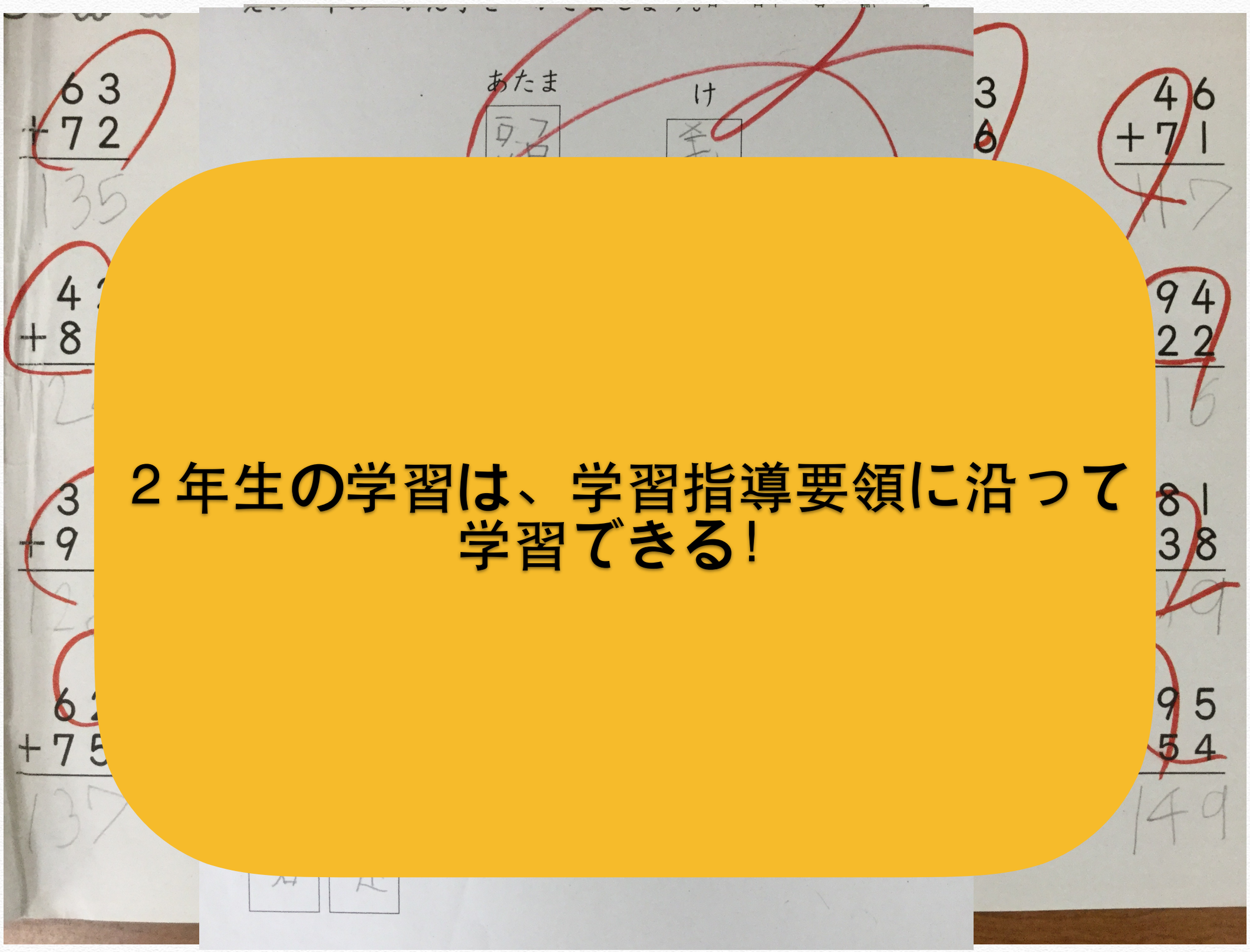
・九九、めっちゃ得意やで

・１００マス計算も楽勝やわ

・気になった漢字は辞典で調べるねん

・音楽も好きやし、体育も好き

２年生の学習は?



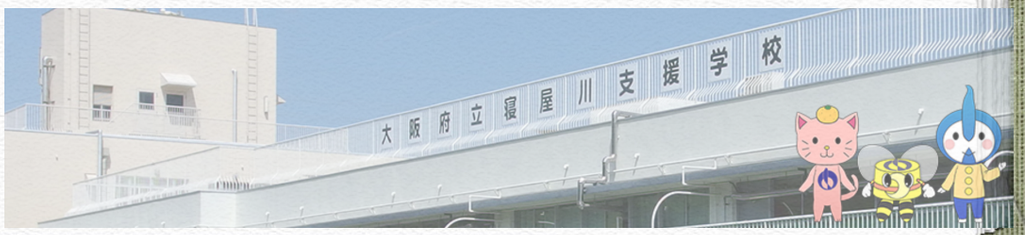
２年生の学習は、学習指導要領に沿って
学習できる!

子どもの話です

果たして手帳や太田ステージが示す通りの子どもなのか?

➡保護者と相談してWISC–Ⅳを受けることにしました。

- 言葉で回答する部分を筆答でも可として



WISC-Ⅳの検査結果を受けて

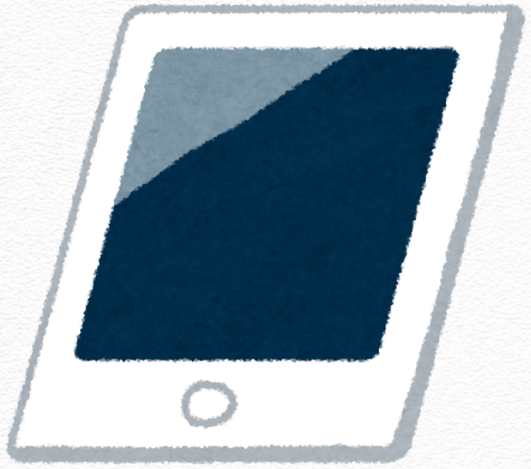
- 言葉の苦手さがあることが明らかになった。
- 視覚、音声によるヒントがあれば話せることが多い。
- 授業の中にはそういうヒントがたくさんある。＝全体の場や授業中には積極的になれることが多い。
- ２人での会話＝言葉を想起して話さなければならない＝苦手

➡言葉を想起できる、又はしやすい手立てがあれば、話せる機会が増えそうだ

考えられる手立てと求められる物

➡言葉を想起できる、又はしやすい手立てがあれば、
話せる機会が増えそうだ

- 言葉を想起するための補助としてICTが有効では
- 動画や写真であれば、授業中のようなヒントになり得る
- 本人の興味があるもので、操作がしやすいもの
- 見やすく、適度な大きさのもの
- 情報をいつでも引き出せるもの

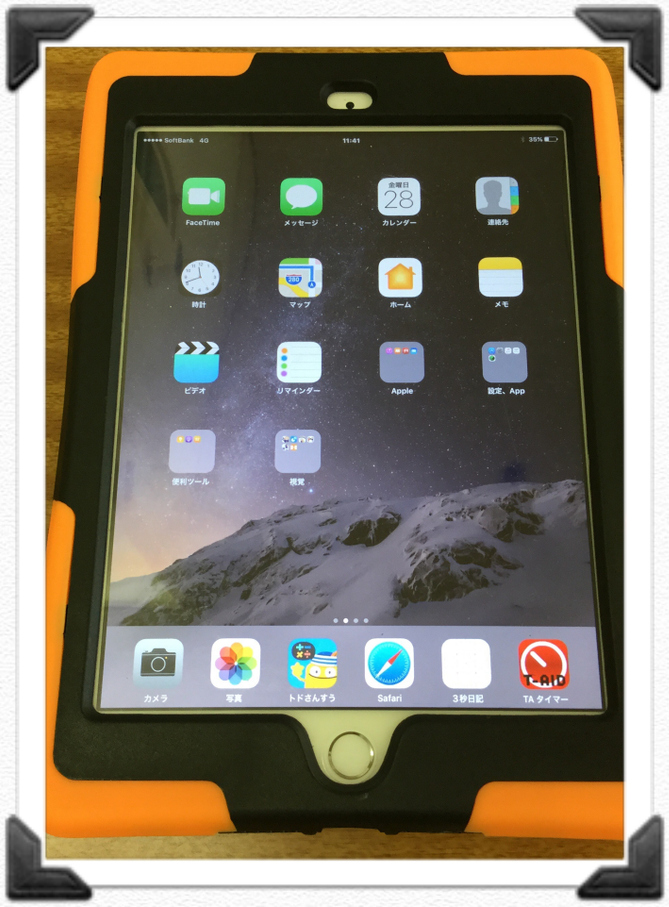


FaceTime
メッセージ
カレンダー
連絡先
時計
マップ
ホーム
メモ
ビデオ
リマインダー
Apple
設定、App
便利ツール
視覚
カメラ
写真
トドさんすう
Safari
3秒日記
TA タイマー

取り組んでいること

Ｓくんが思いを相手に伝えるには…

- 話すにあたって、手がかりがあるといいのではないか
- 情報を共有するためには、自分はもちろん相手にも見やすい大きさがいい
- 写真や絵カードより動画の方が伝わる情報が多い



宿題として持って帰ってます

ステップ１： お母さんにも見てもらおう

- その日にあったことや授業場面を担任が撮影しました。
- 帰りの会で、クラスのみんなで見る時間を作りました。
- 週２回、家庭に持ち帰ってお母さんに見てもらいました。
- できたらＳくんも一緒に見る機会を作ることをお願いしました。

担任としては…

- 学校での様子を担任が撮影して持ち帰る。
- 家庭での様子を保護者に撮影して持ってきてもらう。

予定でしたが…。。

家のことはNO

こんな動画を持ち帰ってます

変わったこと

ステップ１： お母さんにも見てもらおう

- お母さんの実感として、話す内容や時間が増えました。

変わったこと

ステップ１： 家庭での会話の変化

- お母さんに、友だちの名前を出してあったことを特徴を交えて話す時間が少しずつ増えました。

例:あんな、Ｋくんは動画撮んのめっちゃ上手いねん！
でもな、牛乳飲まれへんねんで～

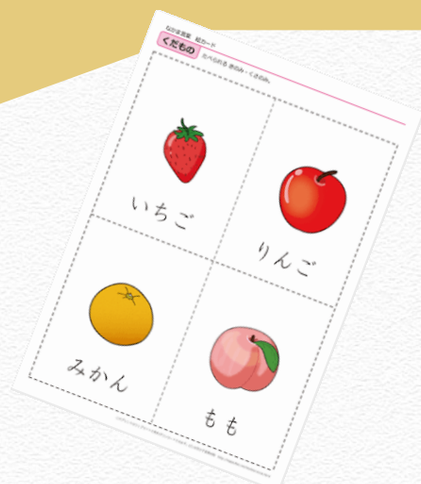
- 自分の興味のあること、頑張ったことをお母さんに話せることがありました。

例:俺の名前の漢字めっちゃ難しいけど、Ｒくんのは簡単やねんで。
今日こまなしの自転車ちょっとだけ乗ってみた！

ここまでの取り組みの中で

物を提示しながら、Ｓくんに訊いてみました。

写真とか、動画とか、カードとかあるけど、どれがあったら話しやすい?



んー…
どうが がいい

本人の気づき

ここまでの取り組みの中で

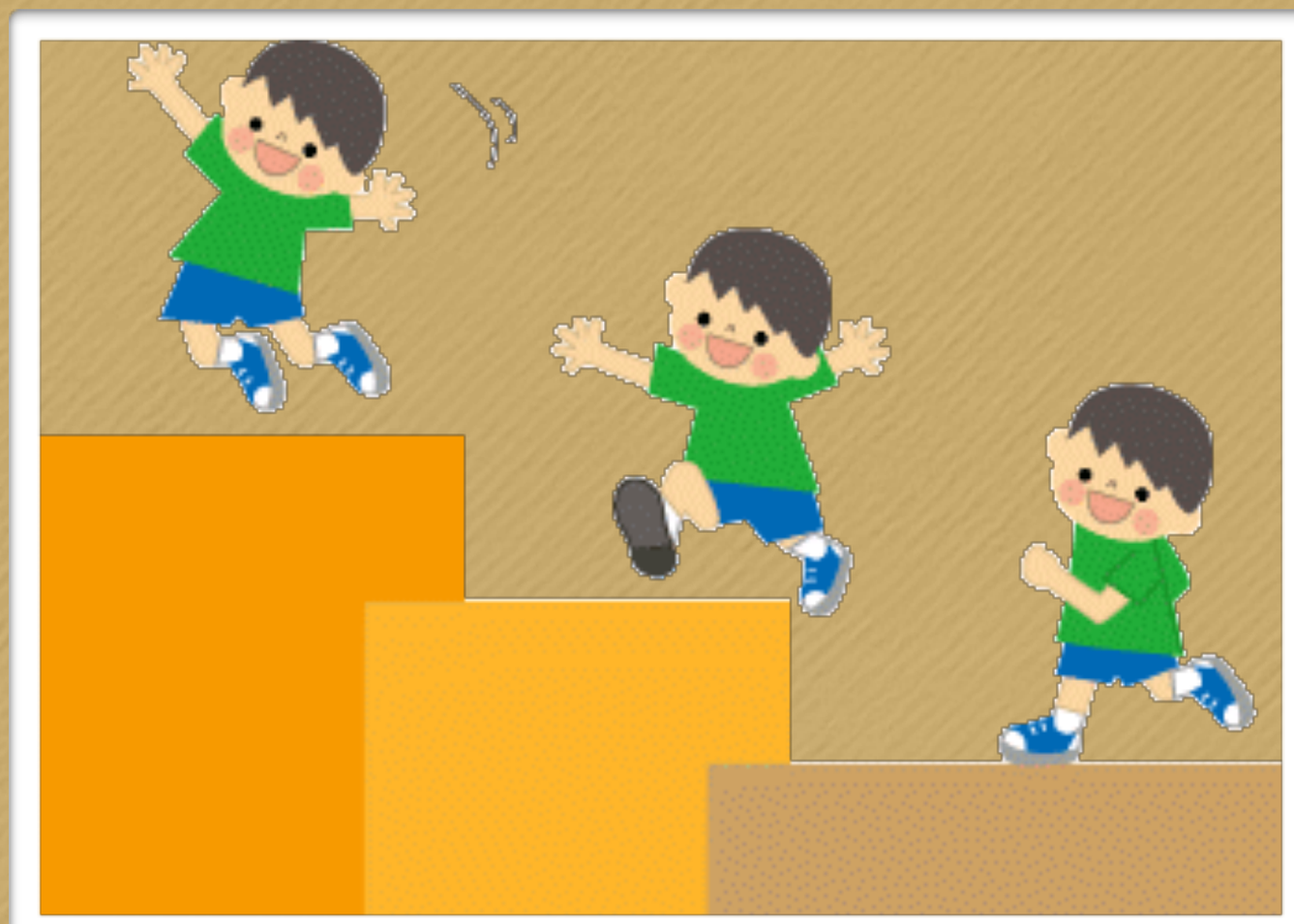
お母さんにも訊いてみました。

iPadの宿題を始めてから、ご家庭での様子はどうですか?

以前よりも学校のことを詳しく教えてくれることが増えました

他にも

- 以前は見せなかった動画を、自分からお母さんに見せられることが増えてきた。
- 動画に写っているその時の様子や、その後の展開を言えるようになってきた。
- 分からない漢字や興味のあることを、Safariで調べることもある。➡それを得意げに保護者に伝えたことがあるそうです。
- お母さんに、「写真撮るからスマホ貸して！ 」と言い、興味のあるものを撮りはじめた。



今後の展望

今後

動画や音声、写真などの手がかりがあると、話しやすさが全然違う！

- 現在のＳくんにとっては、iPadから得られる情報が話や言葉を想起できる手がかりになっている。話すことの面白さや共感しあう喜びをどんどん感じて欲しい。
- 自分の言葉として表出するよりも、映像や音声、文字と絡めて記憶から呼び起こすことで、引き出しを開けやすくなってきている。
- 今後も語彙の獲得をしつつ、引き出しの開け方をICTで補いながら経験として積み上げて行く。

私の勝手な意見ですが

言葉の想起ができるようになれば…

高等教育も視野に入れられるのでは?

そのための課題はたくさんありますが…

今のＳくんの理解力と学力を考えると、決して夢物語ではなさそう

彼の力が発揮できる環境作りをしつつ、本人の思いや願いをたくさん共有して、その嬉しさを味わう経験を積んでいって欲しい。

そのためにできることと必要なことを今後も一緒に探していきたい。

ありがとうございました